

Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2009
Autumn

第2号



石川県地域医療支援センター

・ 医療機関情報登録欄

石川県地域医療推進室・求職情報

石川県内の 臨床研修病院のご紹介



金沢大学附属病院

〒920-8641 金沢市宝町 13-1
<http://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp>

問い合わせ先

担当：卒後臨床研修センター
TEL (076)265-2058
FAX (076)234-4320
h-soum20@med.kanazawa-u.ac.jp

メッセージ

医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けるプログラムです。また、将来の外科系、麻酔科、小児科又は産婦人科等専門医としての基礎的能力を身に付けるプログラムもあります。

研修スケジュール

プログラム名	募集定員(名)	1年目	2年目
プログラムⅠ	7	金大病院	金大病院
プログラムⅡ	33	金大病院	協力病院
Ⅱ		協力病院	金大病院
プログラムⅢ(外科系)	25	金大病院	金大病院
プログラムⅣ(麻酔科)	2	金大病院	金大病院
プログラムⅤ(小児科)	5	金大病院	金大病院
プログラムⅥ(産婦人科)	4	金大病院	金大病院

上記プログラムは、平成21年7月現在の予定であり、変更する場合があります。詳細は当センターホームページをご覧ください。プログラムⅢ～Ⅵについては、内科及び救急の研修を協力病院でも研修できます。



金沢医科大学病院

〒920-0293 河北郡内灘町大学 1-1
<http://www.kanazawa-med.ac.jp>

問い合わせ先

担当：臨床研修センター
TEL (076)286-3511
FAX (076)218-8244
kensyu-j@kanazawa-med.ac.jp

メッセージ

本院の研修の特長は、大学病院ながら地域柄 common diseases の患者さんが多い事、大学病院ゆえにレベルの高い医療が行われ、専門性の高い後期研修へスムーズに移行できる事、そして指導医の年齢層が若い事です。指導医達は本学の学風をうまく引き継ぎ、とても開放的で、診療科の間の垣根、研修医との距離を感じさせません。そんな中、研修医達はのびのびと研修をしています。研修センターは、皆さんの本院での健やかで実り多い研修を力の限り支援したいと考えています。

研修スケジュール



国立病院機構 金沢医療センター

〒920-8650 金沢市下石引町 1-1
<http://www.kanazawa-hosp.jp>

問い合わせ先

担当：管理課
TEL (076)262-4161
FAX (076)222-2758
kenshu@kinbyou.hosp.go.jp

メッセージ

当院は経験豊富な指導医に恵まれ、最先端の医療機器を備えた歴史ある北陸地区の中核病院です。24時間体制の小児救急医療、血管病センターやがん総合診療部での集学的治療、CCU・ICU・NICU 等での重症患者への集中治療など基本的治療からアップデートな最新治療まで幅広く修得できます。また、地域医療のプログラムには、能登地区の公立5病院が協力施設となっており、層充実した内容のものになっています。

研修スケジュール



石川県立中央病院

〒920-8530 金沢市鞍月東 2-1
<http://www.pref.ishikawa.jp/ipch>

問い合わせ先

TEL (076)238-7854
FAX (076)238-5366
syokuin@ipch.jp

メッセージ

当院は石川県における中心的医療機関として、一般の医療機関では対応困難な循環器医療、小児医療、がん医療及び救急医療を4本柱として高度先進的医療の充実を図ることを医療の目的としています。また、外来患者数1日平均約950人、入院患者数1日平均約550人、急性期疾患を中心に様々な患者さんが来院され、高度な専門医療はもろろん、プライマリ・ケアにも幅広く触れることができます。研修医の皆さんが当院で医師としての第一歩を踏み出し、実り多い研修医生活を送られることを期待します。

研修スケジュール



金沢市立病院

〒921-8105 金沢市平和町 3-7-3
<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/36001/byouin/index.jsp>

問い合わせ先

担当：事務局
TEL (076)245-2600
FAX (076)245-2690
byouin@city.kanazawa.ishikawa.jp

メッセージ

金沢市立病院は、地域住民の生命と健康を守ることを使命とし、地域住民、診療所(医師会)、保健・介護施設、高度先端医療施設と連携した新しいタイプの地域連携型病院を目指しています。メタボリックシンドロームセンター、消化器センター、呼吸器・睡眠障害センター化等の横断的運営などにより common disease から、高度で最新の医療、地域連携医療の実践を研修できます。卒後臨床研修は、医療を担う上で、大切な時期です。理想の医師像を目指し、当院で研修しましょう。

研修スケジュール



浅川総合病院

〒920-8621 金沢市小坂町中 83
<http://www.asanogawa-gh.or.jp>

問い合わせ先

担当：総務課
TEL (076)252-2101
FAX (076)252-2102
info@asanogawa-gh.or.jp

メッセージ

指導医からの言葉 / 北陸唯一のものを含めて最新の診断治療機器を備え、熱心な指導医がマンツーマンで指導します。コ・メディカルも皆フットワークが軽く、各診療科との連携が良好!アウトホームな雰囲気のある浅川総合病院で初期臨床研修の大切な2年間を過ごしませんか?

メッセージ

研修医からの言葉 / 大学のように稀な疾患はあまり経験できないものの common disease は手技、知識とも豊富に経験でき「まずはどうするか」が身につくと思います。中心部に近く何かと便利な病院で、また自分の時間も持つことができ、メリハリのある研修が出来ます。

病院見学・実習大歓迎!ぜひ当院の研修環境を体験してください。お問い合わせは左記までお気軽にどうぞ。

石川県内の 臨床研修病院の 紹介



城北病院

〒920-8616 金沢市京町 20-3
http://www.jouhoku.jp

問い合わせ先

TEL (076)251-6111
FAX (076)252-5881
ishikensyu@jouhoku.jp

メッセージ

当院は314床を有し、急性期から慢性期の入院や外来、退院後の在宅管理、介護事業所との連携、地域の健康教室、健診など、保健（予防）・医療・介護まで地域の健康をまもる幅広い取り組みを実践しています。初期研修修了後も引き続き地域に根差した病院群にて後期研修が可能です。海外大学で医学教育修士課程を修了した医師が指導医の力量向上にも力を入れています。日本家庭医療学会認定後期研修プログラムあり。院内保育、病児保育室あり。

研修スケジュール

基本的なプログラムの一例

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	導入期	救急部門	内科					麻酔科	整形外科	外科	内科		
2年次	内科	総合外来・救急	小児科	産婦人科	地域医療 (必修1月・選択1月)		精神科	小児科	選択				



公立能登総合病院

〒926-0816 七尾市藤橋町ア部 6-4
http://www.noto-hospital.nanao.ishikawa.jp

問い合わせ先

TEL (0767)52-8749
FAX (0767)52-9225
syomu@noto-hospital.jp

メッセージ

研修医は医師としての出発点であり、この時期に出会った医師・患者などは今後の医師としての態度に大きく影響し、また、この時期に獲得する能力は後々まで影響していきます。当院は病床数434床、医師数は45名程度で規模的にはそれほど大きくないですが、特徴として小回りが効き、医師同志、又はコメディカルとの連携も十分に生かすことができます。この特徴を生かして、チーム医療、患者中心の医療を学んでいただければと考えています。

研修スケジュール

代表的なプログラム

1年次	2年次
内科 6月 (必修)	救急部門 3月 (必修)
	選択必修 科目等 3月
	地域医療 1月 (必修)
	選択科目等 11月



恵寿総合病院

〒926-8605 七尾市富岡町 94
http://www.keiju.co.jp

問い合わせ先

TEL (0767)52-3211
FAX (0767)52-7483
soumu@keiju.co.jp

メッセージ

7つの特徴
① 常識にとらわれない
② 医学生の多様なキャリアビジョンに対応できる研修コース
③ 自主性重視、参加型の研修
④ 金沢大学周生期専門医養成学講座との教育連携
⑤ 2年次終盤、金沢大学のどの診療科でも研修が可能
⑥ ビッソバーク大学での短期セミナー
⑦ 家庭医療学センターでの外来研修
⑧ チーフレジデントを中心とした屋根瓦式教育

研修スケジュール

スーパーローテーションコースの一例
1年目

内科 6月 必修	救急 1月 必修	麻酔科 1月 選択必修	救急 2月 必修	外科 2月 選択必修
2年目	精神科 1月 選択必修	地域医療 1月 必修	選択必修(5科目から) 3月 選択	選択 金沢大学全診療科

下記のスーパーローテーションコースの他に「内科系専門コース」「外科系専門コース」「産婦人科・小児科専門コース」もあそびます。



小松市民病院

〒923-8560 小松市向本折町水 60
http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp

問い合わせ先

TEL (0761)22-7111
FAX (0761)21-7155
cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp

指導医のコメント

当院は、南加賀の中間に位置し、二次救急病院としての役割を担っています。しかし、実際には一次から三次救急まで幅広く行っており、高次病院では経験できないような症例が多数あり、初期臨床研修の場としては最適な状況にあります。病院は中規模ですが病理科をはじめ全科をそろえており、また、各科に2人以上の指導医がいます。中規模病院としての善さとして、横のつながり先緊密でアウトホームな雰囲気です。近くには温泉郷をひかえ、白山、安宅の浜と自然にも恵まれており、スキー、温泉めぐり、その他健康増進にもよい環境です。また当院は女性医師が多く、女性研修医も安心して研修できる体制が整っていると思います。将来、プライマリ・ケアを目指す医師にとっても専門医を志す方々にとってもきつと実り多い有意義な2年間を過ごせるものと確信しています。

研修スケジュール

代表的なプログラム

1年次	内科 6ヶ月	救急 3ヶ月	選択必修 2ヶ月	選択科目 1ヶ月
2年次	地域医療 1ヶ月	選択科目		



公立松任石川中央病院

〒924-8588 白山市倉光 3-8
http://www.mattohp.jp

問い合わせ先

TEL (076)274-5972
FAX (076)274-5974
mattohp@asagaotv.ne.jp

メッセージ

当院では、PET / CT、64列マルチスライスCTなどの高度医療機器を利用した豊富な症例・プライマリ・ケアを経験していただきます。また患者の診療記録は完全に電子化されており、研修医の負担となる雑務は極めて少なく、NSTやWSTなど各科横断的なチーム医療に参加し、幅広い知識と経験が得られます。選択科目は院内では勿論、金沢大学で研修することも可能です。

研修スケジュール

代表的なプログラム

内科 6ヶ月	救急 3ヶ月	選択必修 2ヶ月	選択科目 1ヶ月
-----------	-----------	-------------	-------------



芳珠記念病院

〒923-1226 能美市緑が丘 11-71
http://www.houju.or.jp

問い合わせ先

TEL (0761)51-5551
FAX (0761)51-5557
kotomi-i@houju.jp

メッセージ

平成22年度より、私どもも基幹型臨床研修病院になります。全国で7病院だけという狭き門でしたが、今までの研修実績や教育プログラムを認めていただいた証だと思っています。臨床研修制度は、医師としての基本的な診療能力や経験を身につけるだけでなく、地域医療の現実や喜びを体感してもらう場でもあります。そのために、大学や医療機関に協力をいただきながら、私どもの全ての力を注いで、皆さんをお迎えします。

研修スケジュール



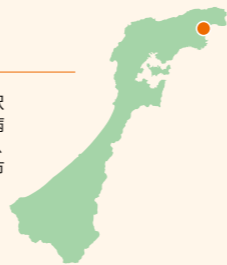
珠洲市総合病院

整形外科

はとう たいぞう
羽藤泰三先生

1969年、愛媛県今治市生まれ。金沢大学医学部卒。金沢大学旧整形外科教室入局後、公立羽咋病院、砺波総合病院、富山県立中央病院、恵寿総合病院、金沢大学附属病院、浅ノ川総合病院で臨床経験を積み、平成19年4月より珠洲市総合病院整形外科に赴任。専門は整形外科、脊椎外科

TAIZO HATO



今でも色濃く生きていく大学病院での経験が、珠洲市総合病院で役立っている。

■ 医師として最も大切なことを大学病院で学んだ

私が金沢大学の整形外科教室の門をたたいたのは14年前のことです。学生の頃から外傷などの救急医療に興味があり、クラブで下腿骨骨折を受傷し整形外科治療に対し身近に感じていたことが進路決定の決め手になりました。当時は、大学を卒業したら地元の四国に帰ろうかとも随分悩んだものですが、クラブの先輩から「俺が面倒をみてやるから」と熱い勧誘を頂き、金沢に残って頑張ろうと決心しました。

北陸各地の病院で整形外科治療の研修をさせて頂いた後、金沢大学附属病院で脊椎グループに所属し、富田勝郎教授、川原範夫臨床教授の指導のもと、専門的治療の勉強をさせて頂きました。大学病院時代の仕事といえば、何と言っても脊椎疾患の手術治療です。10時間以上かかる手術も茶飯事で、一人の患者の手術にチーム医療として何人も医師が入り替わり立ち替わり手術に入るのです。担当患者の術後管理も含めると次の日の朝が来ていたこともあり、この経験は今でも色濃く生きていて感じています。脊椎手術における高度な技術の修練も然るのですが、大学病院でしか経験できないような超難解な症例に対し、「この難しい病気を自分たちの力で絶対に治してやるんだ。」という強い気持ちを学べました。医師として最も大切なことかもしれません。

■ 地元の人たちからもらうパワーが仕事の支えになっている

珠洲市総合病院に赴任し2年半が経過しました。珠洲に来た当初は、あまり何もなし、寂しい所だなあと感じたものでした。医師の数はどんどん減っていきませんが、運ばれてくる救急車の数は一向に減りません。正直しんどいなあと思うこともありましたが、一年を過ぎた頃には少しずつ地域医療を楽しむ余裕が生まれてきました。地元の野球チームに入れてもらい、フィットネスジムにも行くようになりました。野球場で受傷したチームメイトにその場で即診断、後日骨折手術をしたこともあり。大会前に野球肘に苦しむ高校球児の球を受けに行ったこともあり。ジムでは「あちこちが痛い」と相談を受けることもしばしばで、そのまま膝関節鏡手術を行った方もいます。プールで泳いでいると「総合病院の整形の先生に言われてプール歩いとるんや」「おかげで膝の痛みも軽くなったよ、ありがとう」というお声も聞きました。



富田教授の教えに、「患者を自分の家族だと思って治療に当たりなさい」という言葉があります。必然的に珠洲のような小さな町では、特にこの言葉は身にしみます。目の前に来られる患者さんのほとんどが誰かの家族や近所の人達です。それでも、地域に溶け込みながら、< 能登はやさしや土までも > 自分を慕ってくれる患者さんからたくさんパワーをもらいながら仕事をしている気がします。

若い後輩医師の皆様はこれから様々な地域に赴いて研鑽を積まれることと思います。見知らぬ土地に赴くときには不安に思うことも多かると思いますが、思い切ってその土地の風土や文化に溶け込んでみてはいかがでしょうか。きっと違ったものが見えてくると思いますよ！



わたしたちは「地域医療」に情熱と志をもって活躍している医療人を応援しています。県内の地域医療の現場で勤務する医師の皆さんの声をご紹介します。



小松市民病院

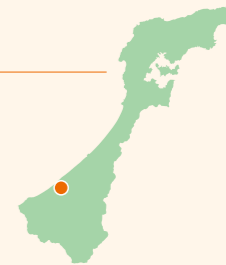
小児科

院長

おおつき あきお
大月哲夫先生

1974年神戸市生まれ。富山大学医学部卒。金沢大学小児科入局（小児神経グループ）。大学附属病院、富山県立病院、氷見市民病院、金沢医療センター、福井県立病院などを経て、平成19年10月より小松市民病院配属。

AKIO OTSUKI



地域の医療は、人の繋がりの中で育まれる。町と人と交わる中で、自分の持ち味を活かした診療を。

■ 小児科医が働きやすい病院

私にとって、幼少時に病気にかかるたびに通院してお世話になった近所のドクターの存在がとても大きなものでした。今もずっと印象に残っています。ですから、早いうちから医師になりたい、小児科医になりたいという望みを持っており、今まで進路に迷うことなく小児科ひとすじでやってきました。大学卒業後は北陸の地域の病院で経験を積み、一昨年の秋に小松市民病院へ。妻も小児科医で、同じ職場。夫婦で協力して3人の子供を育てているところです。

近年、小児科医の不足や勤務が問題になっていますが、小松市民病院の小児科はその点、働きやすいシステムになっているのでありがたいですね。病院に隣接する南加賀急病センターでは南加賀地区の小児科医及び大学病院からの小児科医が当番で夜間・休日の診療にあたり、小児科医の夜の負担がずいぶん緩和されています。センターが病院の真横にあるため、診察後のフォローも極めてスムーズ。病診連携がうまく機能しています。それに市民病院の小児科棟自体、主治医制でなくチームで診る体制なので、土日に医師全員が顔を出す必要がありません。丸一日休みの日もあり、私には理想的な環境です。

■ 自分の持ち味を生かしたい

小松に来て2年、患者さんの顔や名前、家族構成がようやくわかるようになりました。小児科の場合、家族全員と関わることになるので関係構築には時間を要します。でも一旦いい関係が持てればそこに信頼が生まれ、自分の持ち味を診療で発揮できる。私も自分のカラーが出せればという工夫をしています。手描きの絵とかバスの路線図を診療に活用したり、注射の仕方、声のトーンや表情にも留意しつつよりよい医療を模索しています。

また、外に出て町の人と関わることも、地域の小児科医の大事な仕事ですね。当院では、発達に不安のある子とその親をサポートする相談日を日曜に設け、医師が白衣を脱いでボランティアで参加しています。それから、部長の上野先生と一緒に、不登校の子を励ます詩集「二人の小児科医が今伝えたいこと」も書いています。もう3冊作りましたが、応援も兼ねて挿絵を発達障がいの子に頼んだり…。地域に密着した医療を提供するには時間がかかります。一つの病院に少しでも長く居て関係づくりを進めることが大切だと思います。



医師になって10年、自分のしたいことができる環境に居る幸せを実感しています。町医者になることが夢だった私の居場所は、臨床の場にこそある。そう思いつつ、今後も子どもとともに好きなことを追いかけていくつもりです。



地域医療を経験して…

Y U T A H O R I G U C H I



金沢大学附属病院 研修医
地域保健・医療研修：市立輪島病院

堀口雄大 先生
ほりぐち ゆうた

地域医療では、総合力が問われる。
“足らざる”を知って、将来の糧に。

教科書にはないことが次々

現在研修2年目、地域医療を学ぶために市立に
来ています。出身は金沢なので、病院から歩い
どの宿舎で寝泊りしています。昨年は黒部市民病
今年に輪島に来るまでは金沢大学附属病院にい
部の病院は若い人や外国人の患者さんも割に多
し、大学病院は高度の医療を受けようと思っ
まりますが、輪島病院の患者さんは圧倒的に
らなかつたことをい
いる字ばせていただき
ました。

輪島で切実なのが
老々介護の問題です。
病状説明、介護認定、
病後の世話…。教科
書の知識だけでは対
応できないことがた
さんあって自分の非力
を痛感しました。こ
れこそチーム医療、専
門スタッフのサポート
が心強かったですね。
看護師の皆さんも、
実に頼もしい存在です。何でも知っていて二人
で、どんなことにも即座に対応できる。いつ
ばかりです。

輪島病院で診る病気は、生活習慣病のよ
の努力が要求されるものが多いのですが、高
するだけで安心してしまい、日々の自己管理
よくあります。また、高齢を理由に苦痛を

